



STOP! 冬季労働 災害プロジェクト

高山労働基準監督署

冬季転倒対策

◆ 転倒しにくい対策

- 滑りやすさと摩擦係数
 - ・ 摩擦係数0.2未満は転倒リスク高
 - ・ 耐滑性能の高いもの(スパイク付長靴、携帯用かんじき)を積極活用
 - ・ 靴底が摩耗したものはリスク高
 - ・ 小歩幅、靴裏全体で着地リスク低減
- 寒波予報と対策
 - ・ 人が行き交う通路には凍結防止剤
 - ・ 交通機関の遅れ対応

◆ けがを減らす対策

- 身体能力セルフチェック(注)
 - ・ 歩行能力、敏捷性、バランス能力
- ポケットに手を入れたままの歩行は危険
 - ・ 手袋着用習慣
- 能力に応じた運動励行

(注) 職場の安全サイト「STOP! 転倒災害プロジェクト」にアクセスしてください。



雪下ろし対策



◆ 本質安全化

- 屋根急勾配、電気ヒーター、温水パイプ設備の設置

◆ 付加保護方策

- 屋根上からの墜落防止のための安全帯使用、墜落用保護帽の着用
 - ・ 昇降設備の固定、安全帯使用、墜落用保護帽・手袋着用、天窓位置確認、複数人の作業配置計画
- 屋根下から雪下ろし棒で下す際の保護帽着用、退避場所の確保
 - ・ 複数人の作業配置計画

除雪機使用の留意点



- ◆ 登坂能力を超える坂道の除雪禁止
 - 除雪機の登坂能力の事前確認
- ◆ ポールの事前設置による積雪時の路肩明示対策
 - 降雪前に行う準備と心構え
- ◆ 視界不良時の作業における、操作者及び周辺作業者の反射ベスト着用徹底
- ◆ 除雪機の作業前点検、整備の確実な実施
- ◆ 雪・氷などを除去する際の、エンジンの完全停止

一酸化炭素中毒対策

- ◆ 作業管理
 - 自然換気が不十分な場所での、エンジン及び練炭を使用禁止
 - やむを得ず使用する場合は、十分な換気の実施(目安は作業場所気積の5倍)
- ◆ 作業環境管理
 - 一酸化炭素濃度の確認(許容濃度50ppm以下)
- ◆ 呼吸用保護具
 - 適切な呼吸用保護具の使用(防じんマスクは効果なし)
- ◆ 労働衛生教育 & 体制
 - 緊急時の訓練、責任者の配置



冬季交通事故防止



◆ 運転手の心構え

- 急発進、急ハンドル、急ブレーキはスリップの原因
- 車間距離は夏場の倍以上確保
- 交差点へは減速して進入
- 疲労に応じた休憩時間

◆ 自動車整備

- 冬用タイヤの早期装着、車上の除雪

◆ 自然条件

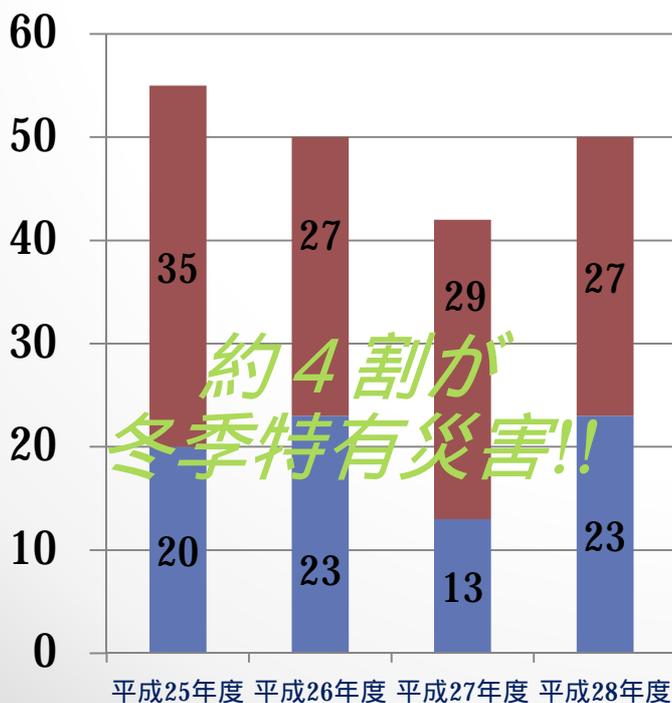
- 積雪・落雪・除雪による視界不良

◆ 時間に余裕

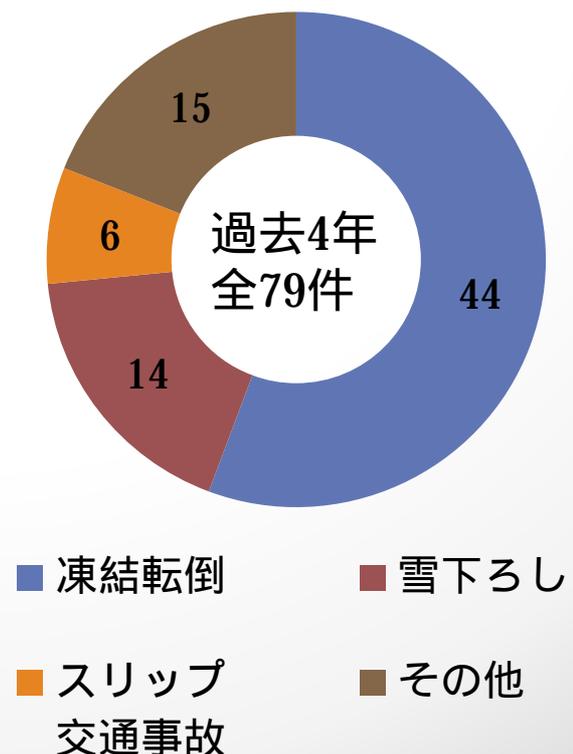
- 交通状況に応じた運転時間の確保

冬季労働災害発生状況

■ 冬季特有災害 ■ その他



冬季特有災害事故の型



12-2月に発生した労働災害 高山労働基準監督署調べ